

都市再生整備計画

ふじさわほんちょう
藤沢本町地区

第4回変更

かながわ ふじさわし
神奈川県 藤沢市

令和2年4月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	ふじさわ 藤沢市	地区名	ふじさわほんちょう 藤沢本町地区(都市再構築戦略事業)	面積	94.8 ha
-------	------	------	-------------	-----	--------------------------------	----	---------

計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 2 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 令和 2 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標

「地域交流拠点の再構築によるコミュニティ活動の活性化」

目標1 活力ある地域コミュニティの形成

目標2 歴史文化資源活用による交流とにぎわいの創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 「藤沢市立地適正化計画」のまちづくり方針は「市民の誰もが、住み慣れた地域で、安全・安心に暮らせる、少子超高齢社会に向けた持続可能なまちづくり」としております。これを実現するため、藤沢市都市マスタープランで定めているコンパクトな都市構造の核として6の「都市拠点」、市民の身近なまちづくりの単位としての13の「地区拠点」、それら拠点を結ぶ交流・連携の骨格となる「交通体系」を位置づけ、多極ネットワーク型のコンパクトシティの構築を推進することとしています。なお、少子超高齢社会に備えた市民の身近なまちづくりの単位となる13地区における拠点は、公共交通によるアクセス性があり、市民活動の拠点となる市民センター・公民館等を中心に配置します。
 公共施設等総合管理計画の下位計画である「藤沢市公共施設再整備基本方針」では、周辺施設との機能集約・複合化を進め、公共サービス等の維持と利便性の増進、維持管理費の縮減を図ることを基本に、老朽化する公共建築物の再整備を進めております。本地区では、この基本方針を念頭にし、併せて藤沢型地域包括ケアシステム運用を見据え、地域包括支援センターや地域生活支援センター、放課後児童クラブなどの地区毎に設置している社会福祉施設を地域交流拠点(地域交流センター)とともに都市機能の集約・複合化を行い、より一層の交流、共助の意識醸成、賑わいを創出による地域活動の活性化を図り、将来も持続可能な都市機能に再構築します。

まちづくりの経緯及び現況

当地区は、14世紀初頭に時宗総本山(藤澤山無量光院 清浄光寺(通称:遊行寺))の門前町として栄え、慶長年間には、徳川将軍家の宿泊施設「藤沢御殿」が設置され、また、東海道の6番目の宿場「藤沢宿」や江ノ島詣の交通の要衝として永く賑わってまいりました。その後、昭和15年の藤沢市制施行時には、藤沢御殿跡地の一角に市庁舎(現藤沢公民館)が設置され、藤沢市の中心として歴史・文化を育んできましたが、鉄道「藤沢駅」の開業により市街地中心部が徐々に移動したため、近年では貴重な歴史・文化資源である「藤沢宿」のまち並みが点在する状況となっており、賑わいの喪失とともに住民のつながり意識が薄れつつあります。
 また、13地区ごとに地域の交流・防災拠点としてのセンター施設を配置しておりますが、当地区を受け持つ「藤沢公民館」は築50年を経過し、施設躯体の老朽化が著しく、動線や設備などの機能刷新が難しいことから、交流活動に対する地域住民の意欲が希薄化し地域力が低下傾向にあります。
 このため、2007年(平成19年)から藤沢商工会議所が中心の地域イベント「藤沢宿・遊行の盆」や、地域の有志団体が主催する「旧東海道 藤沢宿まつり」を開催するなど、遊行寺・旧藤沢宿等の歴史と文化を活用した賑わい復活への意識向上を図っており、地区住民や地縁団体を代表する「郷土づくり推進会議」からは、この気運の高まりを契機に、当地区に残る「藤沢宿」の歴史文化資源の活用を含めた地域交流拠点等の都市機能施設の再構築を図り、活発なコミュニティ活動による地域力向上への誘導・促進が求められております。

課題

- ・地域拠点施設「藤沢公民館」の老朽化が著しく、地域交流活動を推進するうえでの弊害となっていることから、早期に整備が必要となっております。
- ・貴重な歴史・文化資産である「藤沢宿」の街並み等が消えつつあることで住民同士のつながり意識の希薄化が進んでおり、再活性・醸成が必要となっております。このため地域活動の核となる活性化対策を進める必要があります。
- ・地区住民の交流拠点の整備に合わせ、お年寄りや子供たちを施設へスムーズに誘導するためのバリアフリー等道路改良が必要となります。

将来ビジョン(中長期)

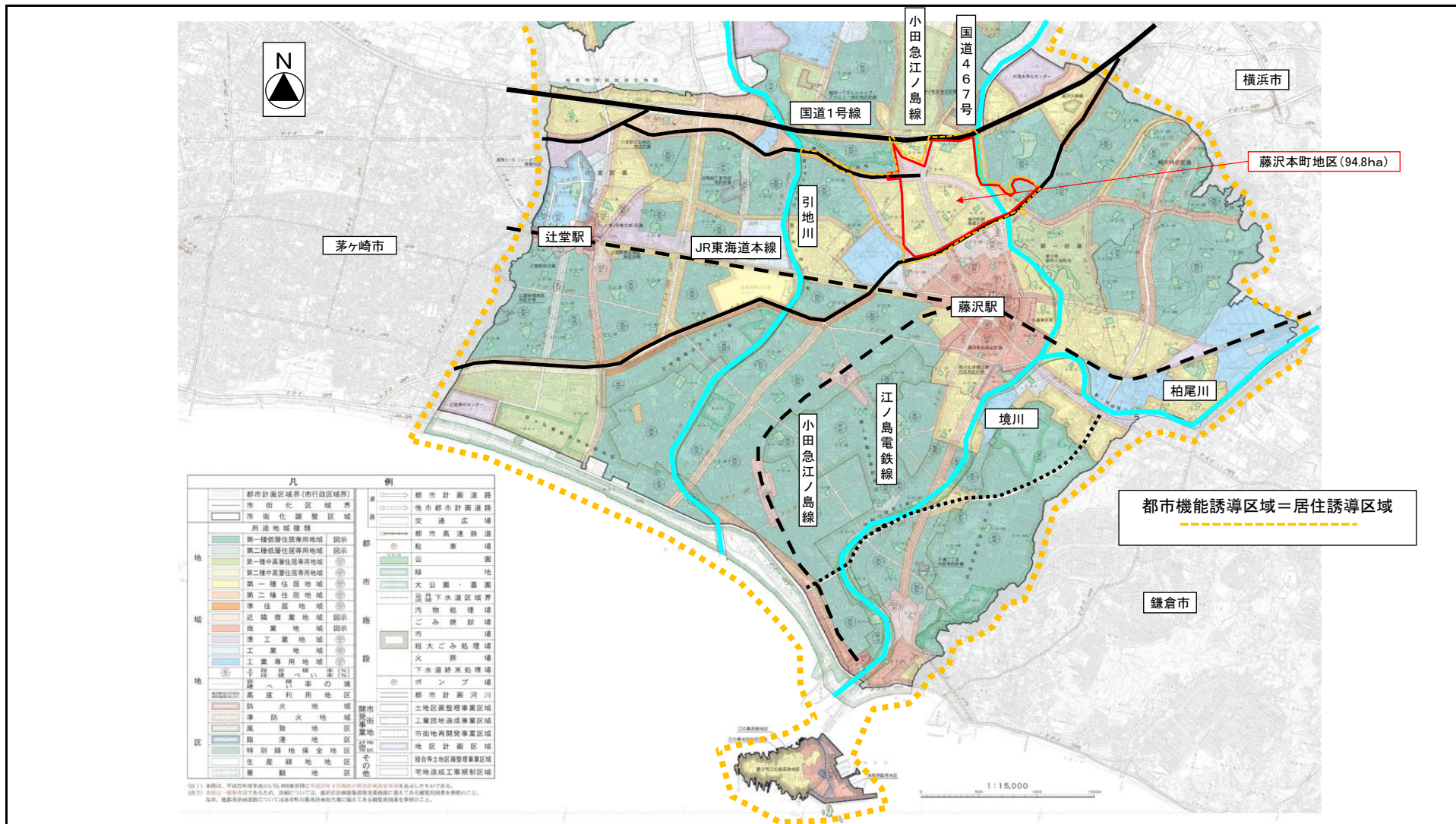
(都市マスタープラン)

当地区は「地区全体に賑わいや交流が育まれるような、回遊性と広がりをもったまちづくり」を将来像として、土地利用方針を「既存の都市サービス機能やまちづくりに関するプロジェクト、遊行寺・旧藤沢宿の歴史文化財等、様々な都市機能や地域資源等を連携・活用しながら、一体感を持った拠点形成」「建物更新時期を迎えている公共施設については、周辺の活力維持・向上に資する機能・土地利用を誘導」、景観・防災方針を「由緒ある歴史・文化を受け継ぎ、新たな魅力と文化を育むまちづくり」を図ることが位置づけられています。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【都市機能誘導施設の機能集約・複合化による利便性の向上と地域交流の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活力ある地域コミュニティの形成を目指し、地域住民の熱望する地域交流センターを中心とした交流活動拠点を再整備するとともに、前面に位置する主要道路のバリアフリー化を含む高質空間形成による整備を行い、交流拠点への容易なアクセス環境と人の流れの誘導により、人が集まることでの賑わいの創出と地域活動の活性化を図ります。 ・地域交流センター周辺に散在する社会福祉施設を機能集約・複合化することにより、地域の世代間や要配慮者との交流を促し、地域活動の効果を高めると同時に住民の活動参加意欲を向上させ、一層の相乗効果を構築します。 ・道路事業及び高質空間形成事業により、通行することが安全かつ回遊できるような賑わい空間を創出する。 	<p>基幹事業：公園(吉野町公園) 基幹事業：高次都市施設(地域交流センター) 基幹事業：中心拠点誘導施設(社会福祉複合施設)</p>
<p>【歴史・文化資源を活用した地域の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊行寺・旧藤沢宿の歴史・文化資源を活用した観光交流センターを整備し、地域交流活動拠点の再整備により醸造される地域活動や既存の任意活動団体との連携を図り、失われつつある賑わいや繋がりを意識を復活することにより、停滞する地域の活性化を図ります。 	<p>基幹事業：高次都市施設(観光交流センター) 基幹事業：道路及び高質空間形成施設(観光交流センター周辺道路)</p>
<p>その他</p> <p>【まちづくりの住民活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、区内では、藤沢商工会議所が中心の地域イベント「藤沢宿・遊行の盆」や、地域の有志団体「旧東海道藤沢宿・まちそだて隊」が主催する「旧東海道 藤沢宿まつり」など、遊行寺・旧藤沢宿等の歴史と文化を活用した賑わい復活への活動を行っている。 ・地区の住民・地域団体の代表で構成する「郷土づくり推進会議」により、風情ある街並みを楽しみながら、藤沢宿の歴史を知る取組として、区内の国道沿いにあるトランスボックスが江戸時代の絵図などで彩られている。現在は、「藤沢宿を形に残す“藤沢宿見える化”」を提案し、取組を進めている。 <p>【市独自の活性化への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧東海道の歴史・文化を大切に魅力あるまちづくりを目指して市条例に基づく「街なみ承継地区」に指定し、景観の保全、復活に取り組んでいます。 ・歴史文化資源「藤沢宿」を活用した地域活性化を目指す事業者に対し、藤沢市単独事業(藤沢市街なみ承継地区魅力向上店舗集積事業)にて費用補助支援を展開しています。 	

都市再生整備計画の区域

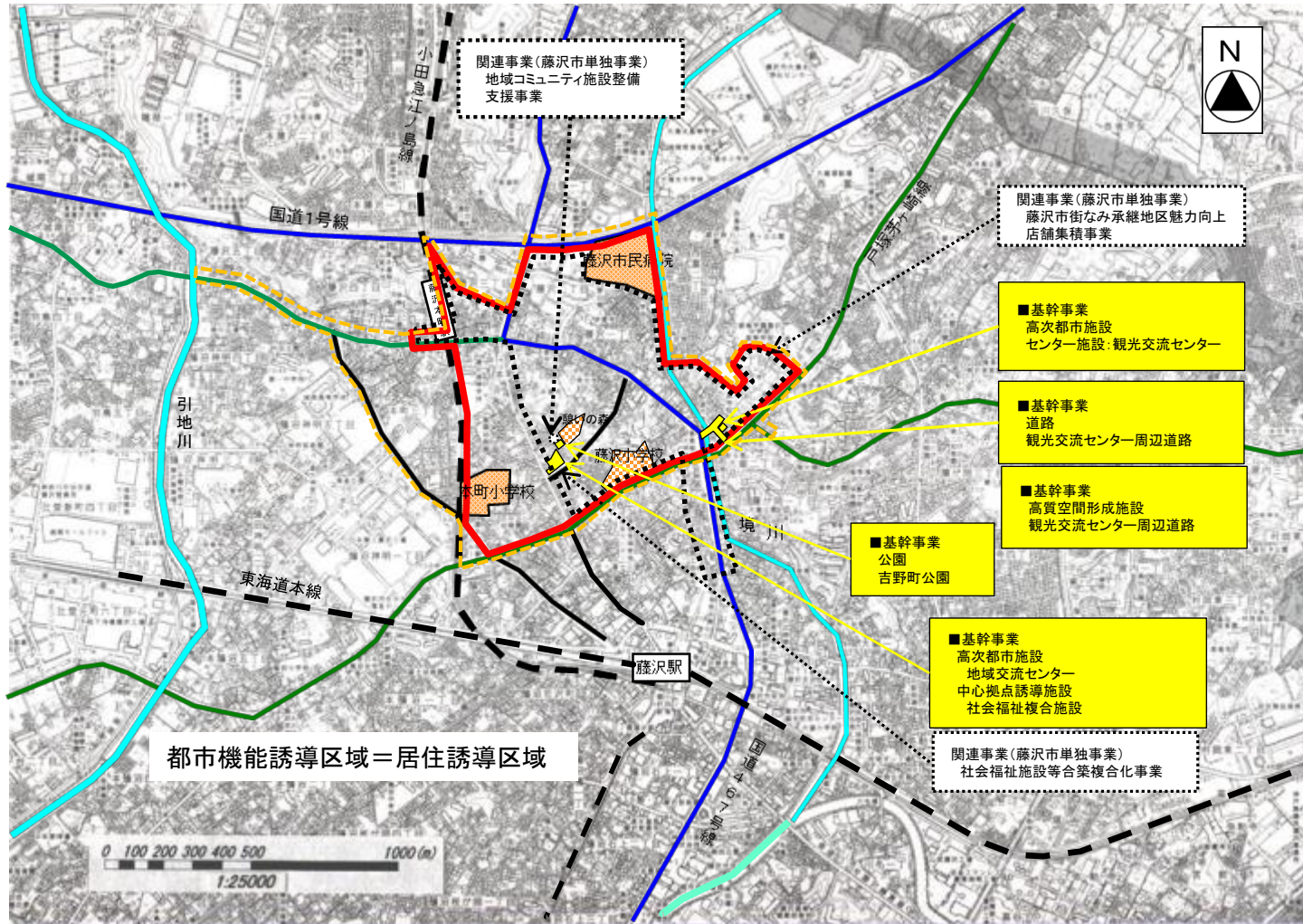
フジサワホンチョウ 藤沢本町地区(神奈川県藤沢市)	面積	94.8 ha	区域	本町1~4丁目、西富1~2丁目、藤沢1~4丁目
-------------------------------------	----	---------	----	-------------------------



(注1) 本図は、平成29年度(2017年度)の都市計画区域図に基づき作成されたものである。
 (注2) 本図は、都市計画図であるため、詳細については、都市計画図を参照していただく必要がある。
 なお、都市計画図の更新については、都市計画図の更新情報に留意していただく必要がある。

フジサワホンチョウ カナガワケン フジサワシ
藤沢本町地区(神奈川県藤沢市) 整備方針概要図

目標	「地域交流拠点の再構築によるコミュニティ活動の活性化」	代表的な指標	地域の活動量 (%)	41.8	(H24年度)	→	62.7	(R3年度)
	目標1 活力ある地域コミュニティの形成		地域の歴史・文化資産活用による地域活性 (人)	5,950	(H25年度)	→	25,000	(R3年度)
	目標2 歴史文化資源活用による交流とにぎわいの創出		()	()	(年度)	→	()	(年度)



関連事業(藤沢市単独事業)
 地域コミュニティ施設整備
 支援事業

関連事業(藤沢市単独事業)
 藤沢市街なみ承継地区魅力向上
 店舗集積事業

■基幹事業
 高次都市施設
 センター施設: 観光交流センター

■基幹事業
 道路
 観光交流センター周辺道路

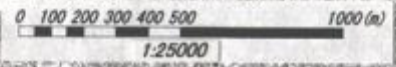
■基幹事業
 高質空間形成施設
 観光交流センター周辺道路

■基幹事業
 公園
 吉野町公園

■基幹事業
 高次都市施設
 地域交流センター
 中心拠点誘導施設
 社会福祉複合施設

関連事業(藤沢市単独事業)
 社会福祉施設等合築複合化事業

都市機能誘導区域=居住誘導区域



計画区域		
都市計画道路	国道	
	県道	
	市道	
区域内主要施設		

	基幹事業
	提案事業
	関連事業